

この度はJTC工具を御買上頂きまして、誠に有難うございます。
本製品をより安全・適切にお使いいただくために この取扱い説明書をお読みください。
取扱い説明及び表示の注意事項や使用方法是十分に理解した上で正しくお使い下さい。
この取扱説明書はお手元に大切に保管ください。

危険

作業場所の注意：ミッションジャッキが転倒したり、地面の沈み込みの恐れがある軟弱な地面、凹凸の地面、傾斜のある地面等には設置しないでください。転倒や落下等で重傷、死亡事故の原因となります。必ず固く平らな場所で行ってください。

作業者の注意：作業される方は必ず御使用前に取扱い説明書を熟知し本製品の使用方法をよく理解してください。さらに各部の操作に慣れ、圧力の調整作業をゆっくりと慎重に行える方が作業してください。不慣れな方は重傷、死亡の事故の原因となります。本体の分解、修理、改造はしないでください。

警告

- ・本製品は、車両からミッションを脱着整備作業することを目的として作られています。
- ・本来の用途以外で使用すると、損傷・破損、ケガをする恐れや事故の原因となります。
- ・誤った使用方法により生じた、商品破損、人体への傷害、物品への損害、その他のいかなる損害に対しても、当社では一切の保証、並びに責務を負いかねますので、ご了承ください。
- ・使用前や定期的に、損傷・破損、作動不良、異音、油圧オイルの漏れなどの異常がないか点検してください。
- ・使用中、損傷、破損、作動不良、異音、オイル漏れなどがある場合は、ただちに使用を中止してください。
- ・異常がある場合、お買い求めの販売店までお問い合わせください。
- ・作業中、作業手順や周辺の状況への安全確認を怠らないようにし、事故に注意してください。
- ・使用者以外、使用場所や保管場所に近づけないでください。
- ・特に子供や幼児は、危険な行動をとることがあるので、絶対に近づけないでください。
- ・直射日光、暖房器具や温度上昇する機器の側で使用しないでください。
- ・本製品は、屋内専用です。屋外での使用は止めてください。
- ・屋外での使用は、本体故障、損傷・破損、ケガをする恐れや事故の原因となります。
- ・能力を超える使用はしないでください。破損及びケガをする恐れや事故の原因となります。
- ・設置場所の作業環境温度は 0℃～ 40℃以内です。
0℃以下はオイルが硬くなり作動不良の原因となります。
- ・設置場所はチリやホコリが多くある場所に設置しないでください。シリンダーやポンプにゴミが付着するとオイル漏れの原因となります。
- ・水気のある場所、水が掛かるような場所に設置しないでください。
- ・過負荷を掛けしないでください。能力以上の過重を掛けると故障や事故に繋がる恐れがあります。
- ・本製品使用中に長時間過重を掛けて保持しないでください。故障や事故に繋がる恐れがあります。
脱着を終えたら速やかに油圧の圧力を開放してください。

サイズ詳細

最大荷重：1500kg

本体重量：70kg

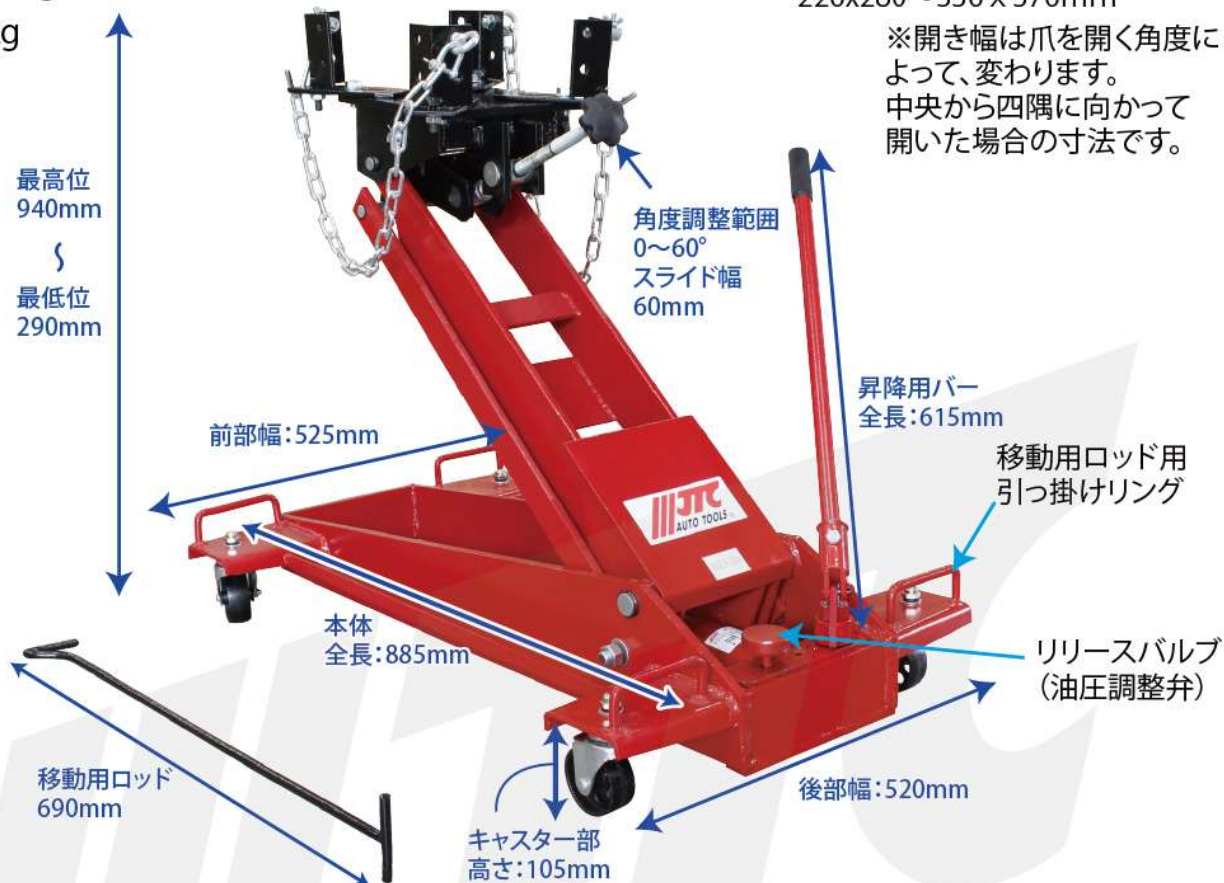
チェーン全長
775mm

テーブルサイズ：200 x 230mm

爪開き幅

220x280~330 x 370mm

※開き幅は爪を開く角度によって、変わります。
中央から四隅に向かって開いた場合の寸法です。



使用方法

※凹凸、傾斜のない、水平な固いコンクリートの上で御使用ください。

1. 車両がジャッキスタンドで固定された状態の時に本商品を車両のミッションの下にセットします。
2. 車両の整備マニュアルに従い保持位置にミッションジャッキのテーブルの爪を位置に合わせます。
3. リリースバルブを時計回りに回してください。
昇降用バーを上下してポンピング操作しジャッキアップします。
4. テーブルがミッションに接触したら、ポンピング操作を止めてください。
5. ミッションの形状に合わせて爪の部分を再調整して付属のフックとチェーンを使用してテーブルにしっかりと固定します。
6. 車両の整備マニュアルに従いミッションを除外し、テーブルにミッションを載せ、リリースバルブをゆっくり、慎重に反時計回りに回してジャッキダウンしてください。
7. ミッションジャッキを最小限の移動距離で除外したミッションを速やかに、作業台等に移してください。
8. ミッションジャッキを移動させる時は移動用ロッドを使用してジャッキ後部左右のリング部分に引っ掛けて引っ張ってください。昇降用バーを引っ張って移動させないでください。

※圧力を掛けた状態で長時間保持する為のジャッキではありません。

長時間過重を掛けて放置しないでください。破損及び事故の原因となります。

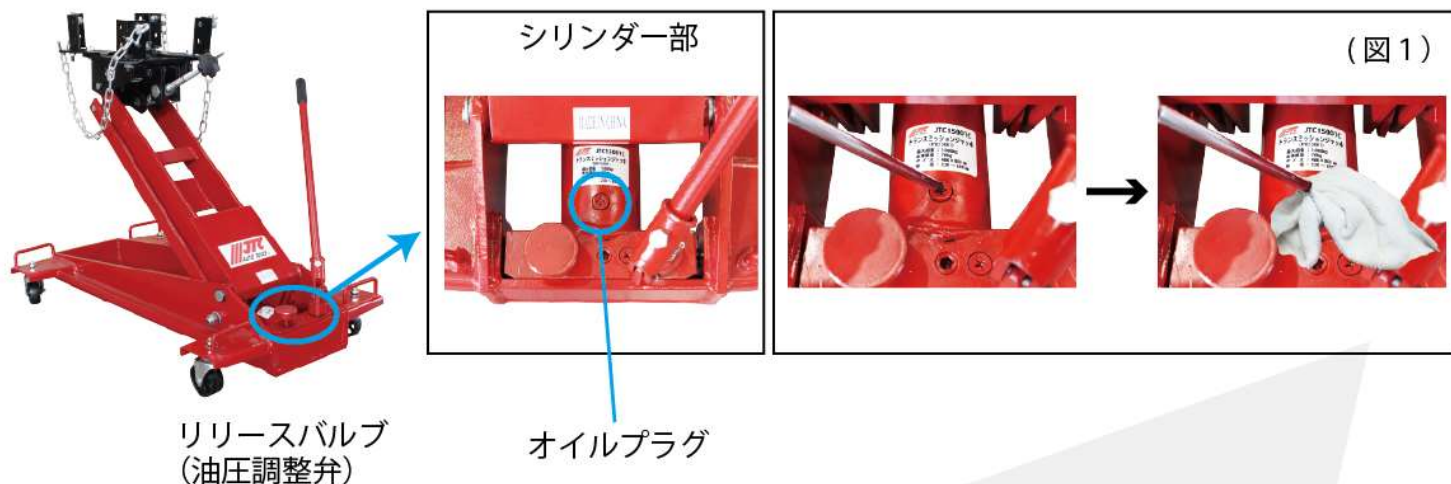
ミッション取り外し後は速やかにジャッキダウンしてください。

※ジャッキを下降する際は、ジャッキの下に何も無い状態を確認して、手や足等が挟まれたり接触しないように十分注意して作業してください。

※圧力を抜く時ゆっくり、慎重にリリースバルブを反時計回りに回してください。急激に回すと圧力が一気に抜け思わぬ事故の原因になり大変危険です。

※ジャッキにミッションを乗せた状態で移動させたり、分解作業をしないでください。転倒、落下等の事故やケガの原因になります。

油圧ポンプのエア抜きの方法及びオイル量に付きまして



油圧ポンプのエア抜きの方法

●スムーズに上昇、下降しない場合はエアの混入又はオイル不足の場合があります。

以下の点検作業を行ってください。

※実際の作業はミッションジャッキに取付いている状態で作業を行います。

1. リリースバルブを反時計回りに回してミッションジャッキを一番下まで降下させて、シリンダーを縮めた状態にしてください。

次にシリンダー内に溜まったエアを開放します。

まず、オイルプラグをプラスドライバーを使用して、反時計回りに緩めてください。

注意：オイルとエアが噴出します。オイルが飛散しないようにウエスを押当ててください。(図1)

この時に必ずウエスでオイルプラグを覆い隠してエアを少しずつ開放してください。

※エアを少しずつ開放せずに、オイルプラグを外すとオイルが噴出して周囲に飛散する危険があります。

ケガや周囲に損害を与えてしまう危険がありますのでご注意ください。

エアが抜けたらオイルプラグを取外します。

2. リリースバルブを時計回りに閉めてジャッキを一番上まで

上昇させシリンダーを伸ばします。(図2)

次にリリースバルブを左に回して一番下までジャッキを降下させます。

この作業を2～3回繰り返してシリンダー内のエア抜きをして下さい。

※エアが抜けない場合は作業を繰り返してください。

エア抜き完了後はジャッキを一番降下させた状態で

オイルプラグを取付けてください。

オイル量を確認して少ない場合は補充してください。



オイル量の点検補充

3. オイルが少ない場合はオイルを補充してください。

上記1.の状態にしてシリンダーのオイル注入口から
オイルを注入します。(図3)

オイル注入口のすぐ下までオイルを入れてください。

使用オイル：作動油 ISO VG32

オイル全量交換時注入量：約 300ml

